

3 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
近代史を学ぶ前に	●前近代の日本の歴史について、通史として記述することで、前近代史についての理解を深めるとともに、人々が築きあげてきた社会について、生徒の主体的・多角的な考察を促すことに意を用いました。(第1号)	●「近代史を学ぶ前に」 全て
	●日本の社会や国家の発展が、世界、特に東アジアの国々と関わり合い、影響し合っていることを記述し、生徒が国際社会の一員であることを自覚できるよう意を用いました。(第5号)	●「近代史を学ぶ前に」 全て
序編	●体験的・作業的な学習を行えるよう構成し、歴史の学習を深める考え方を示すことで、生徒が主体的・多角的に現代社会における課題を考察することをめざしました。(第1号、第3号)	●序編全て
	●日本の近代化とアイヌの人々の関わりを扱い、その課程でアイヌの伝統的な生活や産業が変容を迫られたことを記述することで、平等かつ平和的な社会の構築と相互の価値観や伝統を尊重することの重要性を考察し、これからの社会における課題を思索できるように配慮しました。(第5号)	●序編全て
第1編	●近代の日本の歴史について、世界の動向との関わりを踏まえて、その社会の様子や課題、課題に対する取り組みを具体的に記述し、生徒の主体的・多角的な考察を促すことに意を用いました。(第1号)	●第1編全て
	●官民を問わず様々な人々が将来を見据えながら自主的・自律的に改革や運動、学問、勤労に邁進して新時代を築いた様子を、具体的な事例や特に活躍した人物を挙げながら記述しました。(第2号)	●第1編全て
	●民主主義や基本的人権など、自由と平等を尊重する動きが世界に広まり、日本でも社会のあらゆる面において改革が行われた経緯と、今日に至る近代社会の歴史的意義を捉えることができるように配慮しました。(第3号)	●28~29, 36~37, 44~55, 58~71, 76~77, 88 ページ
	●産業の発達にともない、環境汚染や環境破壊が進む一方で、環境保全の意識が芽生えていったことを記述しました。また、産業構造の変化によって、厳しい環境で労働した人々とその環境改善のために行動した人々を取り上げることで、幸福・正義・公正という考察の視点に生徒自らが気付くよう留意しました。(第3号、第4号)	●34~35, 42, 50~51, 84~88 ページ
	●近隣のアジア諸国・ロシアなどとの関係や北海道・沖縄などについても、歴史的な記述になるよう配慮し、国際交流・国際理解を促すことに意を用いました。(第5号)	●28~31, 38~39, 54~57, 59, 69~74, 77~83 ページ
第2編	●大戦期の日本の歴史について、世界の動向との関わりを踏まえて、その社会の様子や課題、課題に対する取り組みを具体的に記述し、生徒の主体的・多角的な考察を促すことに意を用いました。(第1号)	●第2編全て
	●戦争が経済、人々の生活や労働に及ぼした影響と、それに人々がどのように対応していったのかを記し、個人の価値を尊重することの大切さ、また、勤労と生活の結び付きを考察できるよう配慮しました。(第2号)	●98~99, 101, 106~107, 118~119, 122, 126, 138~139 ページ
	●この時代に、現代につながる日本の社会の基礎が形成されたこと、また、それらが戦争によって受けた影響を記述し、現代の社会の在り方や社会問題を歴史的な背景から捉え直す契機となるよう配慮しました。(第3号)	●第2編全て
	●世界を巻き込んだ戦争によって、多くの人命が人為によって失われ、国土の荒廃や環境破壊にもつながる兵器が使用されたことなどを具体的に記述し、生命と自然を尊重する態度を養い、国際平和の重要性について歴史的な観点からも考察できるよう配慮しました。(第4号、第5号)	●96~97, 104~105, 124~125, 127~131, 134~137, 140~143 ページ
	●大戦期に日本が侵攻した地域や占領地域の人々の動向についても丁寧に扱い、国際理解を促すことに意を用いました。(第5号)	●103, 105, 109, 116~117, 124, 135~137, 143 ページ

図書の 構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第3編	●戦後から現在にいたる日本の歴史について、世界の動向との関わりを踏まえて、その社会の様子や課題、課題に対する取り組みを具体的に記述し、生徒の主体的・多角的な考察を促すことに意を用いました。(第1号)	●第3編全て
	●民主化がはかられるとともに、高度経済成長などを通じて労働や生活状態に変化と向上が見られたこと、また、新たな問題も生まれてきたことを記述しました。(第2号)	●148, 150~151, 161, 168~169, 172~174, 176~177, 179, 183, 186 ページ
	●民主化や差別解消などの実現に向けて、戦後様々な運動や改革が行われてきたことを記し、それらの維持とさらなる発展のために、他者と協力して工夫を重ねることの必要性とその課題について考察できるよう配慮しました。(第3号)	●第3編全て
	●産業の発展や核開発などにより自然環境や人々の健康が脅かされ、それらに対する取り組みや社会運動が行われる一方で、未解決の問題があることも認識できるよう、意を用いました。(第4号)	●166~171, 175, 186~187 ページ
	●これからの国際社会のもつ課題や、また、これからの日本が国際社会において果たすべき役割を生徒が主体的に考察し、国際社会の平和と発展に主体的に関わっていく自覚と責任をもつ契機となるよう、配慮しました。(第5号)	●第3編全て

4 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

① 豊富な資料と取り組みやすい紙面

- ▶本文を具体的に裏付ける資料として、写真・模式図・文字史料・統計資料などの活用をはかりました。また、これらの図版のもつ学習効果をより有効にする必要性から、判型をB5判とし、全編をカラー印刷としました。
- ▶ユニバーサルデザインに配慮し、できる限り多くの生徒にとって読み取りやすい教科書となるよう意を用いました。ユニバーサルデザイン・フォント、カラーユニバーサルデザインを考慮した配色を、全編を通じて取り入れました。
- ▶編や章ごとに色分けを行い、各ページにはその色を配し、柱にも章や節の名称を入れることで、生徒が自分の学習している箇所が明確になるよう工夫しました。
- ▶付録として「年表」「歴代内閣総理大臣」、後見返しに「おもな政党の変遷」を付し、学習の助けとしました。

② 生徒の理解を助ける本文記述

- ▶本文はつとめて平易・簡明としながら、重要なポイントは確実におさえられるようにしました。難読と思われる語句に関しては、原則として見開きの初出にふりがなをつけました。また、本文の記述に際しては、重要な語句にはゴシック体を用いて学習上の注意を喚起しました。
- ▶歴史上の人物については、本文初出の箇所に生没年または在位年を付記し、学習の助けとしました。
- ▶本文とは別に、「側注」「用語解説」を設け、本文の文章を損なわないよう、補足事項や具体例を掲載しました。

② 世界，特に東アジア地域との歴史的な関わりを理解する

▶日本の前近代史を，東アジア地域との関連を踏まえて，年表とともに概略を記述しています。中学校での歴史学習を確認するとともに，近現代の日本における国際的な相互交流の背景についての理解を助け，日本の近現代史に対する生徒の興味・関心を高め，現代にも続く課題の歴史的な背景について，より深い理解を促すことをめざしています。

▼ p.6

I 東アジアと日本の文明化

縄文時代

縄文時代の遺跡は700万年前の動物の骨を加工したものであり，その中には縄文時代の土器が数多く見つかっています。縄文時代の土器は，縄文時代の生活様式を反映しています。縄文時代の土器は，縄文時代の生活様式を反映しています。

弥生時代

弥生時代の遺跡は，弥生時代の生活様式を反映しています。弥生時代の土器は，弥生時代の生活様式を反映しています。弥生時代の土器は，弥生時代の生活様式を反映しています。



縄文時代の遺跡は700万年前の動物の骨を加工したものであり，その中には縄文時代の土器が数多く見つかっています。縄文時代の土器は，縄文時代の生活様式を反映しています。縄文時代の土器は，縄文時代の生活様式を反映しています。

▼ p.10

II ユーラシア世界の激動と武家幕府の形成

戦国時代

戦国時代の遺跡は，戦国時代の生活様式を反映しています。戦国時代の土器は，戦国時代の生活様式を反映しています。戦国時代の土器は，戦国時代の生活様式を反映しています。

幕府時代

幕府時代の遺跡は，幕府時代の生活様式を反映しています。幕府時代の土器は，幕府時代の生活様式を反映しています。幕府時代の土器は，幕府時代の生活様式を反映しています。



戦国時代の遺跡は，戦国時代の生活様式を反映しています。戦国時代の土器は，戦国時代の生活様式を反映しています。戦国時代の土器は，戦国時代の生活様式を反映しています。

▼ p.13

III 幕藩制国家の成立と東アジア世界

近世の国家体制

近世の国家体制の成立は，近世の国家体制の成立を反映しています。近世の国家体制の土器は，近世の国家体制の成立を反映しています。近世の国家体制の土器は，近世の国家体制の成立を反映しています。

東アジア世界

東アジア世界の激動は，東アジア世界の激動を反映しています。東アジア世界の土器は，東アジア世界の激動を反映しています。東アジア世界の土器は，東アジア世界の激動を反映しています。



近世の国家体制の成立は，近世の国家体制の成立を反映しています。近世の国家体制の土器は，近世の国家体制の成立を反映しています。近世の国家体制の土器は，近世の国家体制の成立を反映しています。

▶各編の扉ページに，当時の世界の様子を示す地図を大きく掲載し，簡単な日本と世界の年表を付すことで，各時代の流れを大観しながら，世界史的な視野を念頭において歴史認識を深めること，また，世界と日本とのつながり，互いの影響について思考し，現代の国際社会を歴史的に考察することをねらいとしています。

第1編 近代の日本と世界



アヘン戦争
ドイツ帝国の成立
明治天皇の御即位
近世の国家体制



19世紀後半の世界の様子

アヘン戦争により，それまで閉ざされていた東アジアの封鎖体制を破る重要な契機となる。東アジアは，欧米の資本主義国を中心とした近代的世界市場へと強制的に組み込まれていくことになった。

近世の国家体制

近世の国家体制の成立は，近世の国家体制の成立を反映しています。近世の国家体制の土器は，近世の国家体制の成立を反映しています。近世の国家体制の土器は，近世の国家体制の成立を反映しています。

▲ p.26 ~ 27

③ 生徒の主体的な歴史学習・探求・表現活動を促す

▶各項の本文は、項のテーマに沿って記述を整理しています。本文の文脈に含めにくい内容は、側注や用語解説を設けて掲載し、生徒が歴史についての理解を主体的に深められるよう工夫しています。

*無産党

立憲政友会のような旧来の政党に対し、農民や労働者の利益を代表する合法的な社会主義政党のことで、労働農民党などがこれにあたる。

▶ p.108 (用語解説)

▶多彩なコラムと特設ページ（もっと知りたい日本史）を用意し、当時の人々や社会のようすを示すことで、生徒の興味・関心を高め、日本や世界の政治・経済・文化などさまざまなものが影響し合っただけで社会が形成されていることに気づき、歴史学習によって単に知識を習得するのではなく、歴史学習を通じて、主体的にこれからの社会について思考・表現する力を養うことをめざしています。

▼ p.149

敗戦と文化財流出

なぜ海外の美術館や博物館が、日本の美術品を多く所蔵しているのだろうか？

戦前、明治維新には、日本で価値の下がった浮世絵や仏像などが大量に欧米社会に流れ出した。1929（昭和4）年に文化財保護法に「国宝保存法」が公布されたが、戦後の社会混乱によって、ふたたび国外へ流出していった。

戦前に、GHQ 民間情報教育館の美術記念館は、日本国内の古美術や宝物を調査した。調査を終ったハーワード・ホリスやシャーマン・リーは、強制的に取り立てた美術品の部分を鑑賞し、市場に出たコレクションを調査した。彼らが購入した美術品は、グリーンランド美術館やシアトル美術館のコレクションに入った。

アメリカ人の日本美術品への興味や収集は、第二次世界大戦が転機点になったと言われている。戦争中、日本語や日本文化に関する知識は、アメリカ政府にとって貴重なものであった。そのため、日本文化の研究がおこなわれたのだ。

1950年、『文化財保護法』が施行された。その目的は、文化財の保存・活用と国民の文化的向上である。

戦後直後の大連で、日本人の命を奪ったのは日本船だった。どういったことか？

日本美術品の移動先はアメリカだけではなく、旧満洲大連市の無工会議所会館であった。この館は、財界人であり、美術収集家であり、若い芸術家の後援者でもあった。

敗戦時、各国民を救済するため、首飾は美術コレクションの中から浮世絵や日本画 560 点あまりを選び出し、ソ連軍司令部に引き渡した。その代わりとして約 100 トンをもらい受け、古美術に売った日本人を救った。

「西條コレクション」とよばれる作品群は、長い間ロシア国立東洋美術館に保管されていた。2000（平成 12）年に 120 点あまりの運搬が実現し、長い歳月を経て、歴史の前に封印されていた作品が公開された。

海外の美術館やコレクターが所蔵する日本の絵画や工芸などの文化財が、一時的に日本に帰って国内を巡回する展覧会を、しばしば「宝庫展」とよぶ。文化財の流出を、損失とみなすが、その対価として得たものを利益とみなすか。美術品の移動は、国際関係の重要な一つの側面である。流出を一つの文化交流とみるならば、美術品が戦後日本の外交に果たした役割は大きい。



伊波普猷 (1876~1947)



大分県出身の美術家で大連を中心に活躍した。

▼ p.108

伊波普猷 (1876~1947)

那覇に生まれ、近代教育をうけた沖縄の最初の世代の人物。伊波は、沖縄の言語文化が日本本土との共通性をもつしつつ、同時にその独自の価値を認め、沖縄文化の探究を続けた。戦後直後に発表した本で、彼は「地球上で帝国主義が終わりを告げる時、沖縄人は「にが世」（不幸な時代）から解放されて「あま世」（幸福な時代）を楽しみ十分に個性を生かして、世界の文化に貢献できる」と記している。

▼ p.54

最初の女子留学生—津田梅子—

津田梅子 (1864~1929) が女子留学生として米国へ出発したのは 1871（明治 4）年末。5 人の少女のなかで最年少の梅子は、まだ 7 歳であった。出発時には一言も英語を話せなかった彼女も、2 年もすると作文や日本への手紙も英語で書くようになり、自分から進んでキリスト教の洗礼をうけるなど、アメリカの生活にすっかりとけこんで成長した。10 年あまりの留学を終え帰国した梅子は、アメリカでの育ての親ともいうべきランメン夫妻に宛てて英文で、次のように書き送っている。

「私の家は日本ではかなり西歐風なのですが、ここですら、アメリカ風なやり方は奇妙な眼で見られます。……女性は男性より遥かに人生の辛い部分を背負っています。気の毒な、可哀そうな女性！」

▶ **女子留学生 アメリカ、シカゴで撮影されたもの。写真右端は山川捨松で、そのひざの上にいるのが津田梅子。**



異文化体験にとまどい、10 年のあいだにまったく忘れてしまった日本語の再学習に苦しみつつも、梅子は女性の未来を切り開こうとする情熱をもち続けた。梅子が日本の女性たちにもっとも必要と感じたのは高等教育であった。帰国後 18 年を経て、梅子は女子英学塾（いまの津田塾大学）を 1900 年 10 月に開校し、その後も女子教育に生涯をささげた。

- 3 -

▶「序編 私たちの時代と歴史」「近代の追究」「現代からの探究」では、▼p.117
歴史を追究する方法論を、具体的な歴史的事象を踏まえながら解説することで、生徒が歴史について、主体的な学習・研究活動を行う際の助け・参考となるよう配慮しています。

▼p.21

③文字で書かれた資料のほかに、絵画や写真、地図、映像などの視覚資料も重要な情報をあたえてくれます。最近ではインターネットで手軽にこうした情報を得ることもできますので、活用しましょう。その際、情報の質や発信者などに注意をはらい、正確な情報か、著作権を侵害していないか、などについての慎重な扱いが必要です。

▼p.191

②本論
本論では設定した課題について、調べた方法、手順などを、プレゼンテーションソフトなどで、順序立ててまとめていきましょう。
次に、フィールドワークなど、実際に取り組んだことでわかったことを整理して提示します。
結論に向けて、自分がわかったことは、何を根拠にしているのか、聞いている人にわかってもらうにはどうしたらいいのか、工夫します。

文献資料から調べてみよう！
調査の手がかりや疑問点は、まず身近な図書館に出かけて、文献資料を調べてみましょう。
図書館のレファレンスサービスを利用したり、コンピュータを使って蔵書を検索したりして、疑問点について書かれた本を探していきましょう。
見つけた文献資料から情報を得るときには、次の点に注意しましょう。
■「いつ」書かれたものか…当時書かれたものなのか、あとの時代に書かれたものなのかによって、同じできごとでも評価が異なることがあります。まずは近年に書かれた文献にあたるかと調べやすいでしょう。
■「誰が」書いたものか…書き手の立場や考え方によって、同じできごとでも捉え方が異なることがあります。「はじめに」などで筆者の考えなどが述べられていることが多いので、それをふまえて文献を読み進めましょう。

④ 地域から学ぶ日本近現代史

▶北海道と沖縄の歴史を、通史的に扱う項を設け、地域の歴史から日本の近現代史を考察できるよう配慮しています。北海道の歴史は「序編 私たちの時代と歴史」、沖縄の歴史は「現代からの探究」で取り扱っています。

▼p.20

序編 私たちの時代と歴史

1 日本の近代化とアイヌの人権

日本史では、おおむね19世紀なかばの江戸時代末期以降を近代、1945年のアジア太平洋戦争敗戦以降を現代と時代区分しています。この「日本史A」の教科書では、その近代・現代を中心に、日本とそれに関連する世界の歴史を学んでいきますが、その際、現代社会がかかえるさまざまな問題や課題には、この近代・現代史のなかで形成されてきたものが多いことを意識しておきましょう。

ここでは、近代史のなかで生み出された現代における課題の一例として「日本の近代化とアイヌの人権」を取りあげています。あわせて、近代・現代史を探究する際に有効な歴史資料にはどのようなものがあり、どこに保存されているのか、また、それらの資料を調べる方法や留意点についても学んでいきましょう。

時代区分とは

歴史学では、一般的に、社会のあり方や政治や経済のしくみなどを指標として、原始・古代・中世・近世・近代・現代という大きな時代区分を設け、歴史の流れを理解することになっています。この時代区分は、おおむね世界共通に用いられる。また、日本では、奈良時代・江戸時代などと政権の所在地にもとづく区分、開化時代や古墳時代、戦国時代といった文化や社会の特色をもとにする区分、明治時代というように年号をもとにする区分をあわせて使用している。このように時代区分にはさまざまな表し方があるが、いずれにしても、歴史をどのような視点で理解するがよくなるのか、その使い方も異なっている。

以下では、「日本の近代化とアイヌの人権」という研究テーマを設定した生徒たちが、先生に質問のためのヒントをもらっています。会話をたどりながら、調査方法や資料の活用方法を考えていきましょう。

あかり：私たちは北海道修学旅行の研究課題として「日本の近代化とアイヌの人権」というテーマを選びました。歴史的にみれば、古くからアイヌは北海道や東北地方北部で、独自の言語や文化をもって暮らしてきた人びとですね。先生、調べるにあたって何か手がかりになるものはないですか？

先生：1997（平成9）年に公布された「アイヌ文化振興法」はどうだろう。

史料 アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律（アイヌ文化振興法）

（目的）第一条 この法律は、アイヌの人々の誇りの源泉であるアイヌの伝統及びアイヌ文化（以下「アイヌの伝統等」という。）が置かれている状況にかんがみ、アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する国民に対する知識の普及及び啓発（以下「アイヌ文化の振興等」という。）を図るための施策を推進することにより、アイヌの人々の民族としての誇りが尊重される社会の実現を図り、あわせて我が国の多様な文化の発展に寄与することを目的とする。

▼p.190

現代からの探究 沖縄の基地問題と私たちの課題

現代の社会やその諸問題は、歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史にかかわる主題を、自分で探してみよう。さらに資料を活用して探究し、課題解決に向けてその考えをまとめる。表現する学習に取り組んでみよう。取り上げる主題としては、人権、環境、情報、国際理解などのほか、私たちの身近な衣食住、交通、医療や保健福祉、地域社会などの歴史的变化も考えられる。

ここでは、近年、ニュースや放送のうごきなどで注目を集めた「沖縄の基地」の地帯を課題として設定し、探究する学習を事例として取りあげてみる。調べた結果を整理して、わかりやすく説明する方法についても、プレゼンテーションソフトを使用する表現を試みよう。さらに、原因と結果の因果関係を考える観点から、歴史を時系列にたどるのではなく、さかのぼって考える方法で考察を進めよう。

私たちは、ニュースや新聞で取り上げられていた沖縄の普天堡基地の問題に強い興味をもちました。そこで今までの「日本史A」の学習を参考に、歴史を通して沖縄にはなぜアメリカ軍基地が多く存在しているのかについて調べ、この問題をどのように解決していくべきなのか、自分たちの手がかりを見出したいと考えました。

1 序論

このように、課題設定の理由をまず述べましょう。なぜこのテーマを選んだのか、自分が興味をもった理由、これから何を調べて発表するのか、全体を把握できるようにしましょう。また、課題について、自分なりに考えていることなどもちよっとコメントするのでもいいでしょう。

2 沖縄のアメリカ軍基地の現状

下のスライドや右ページの地図をみてください。これから考えられることは、沖縄県に設けられたアメリカ軍基地・施設は、人びとの生活に大きくかかわっているということでしょう。こうした現状のなかで、沖縄県民は危険と隣り合わせの暮らしを強いられ、騒音問題やアメリカ兵の不祥事などに苦しめられているのです。

どうしてこんなに悲惨な状態になっているのか、私たちは沖縄の歴史をさかのぼって考えてみることにしました。

ホームページや図書館などで探さる資料を探して、いろいろな視点からの情報を集めよう。どのような順番で発表するかをイメージして、プレゼンテーションソフトなどで整理してみましょう。

沖縄のアメリカ軍基地の現状(1)

普天堡基地（米軍）
米軍普天堡飛行場（米軍）
米軍嘉手納飛行場（米軍）
米軍キャンプ・シュワブ（米軍）

沖縄のアメリカ軍基地の現状(2)

2019年1月現在、沖縄県には44の米軍施設が所在し、その総面積は約2,000ha。これは沖縄県総面積の約17%に相当する。また、日本の国土面積を考慮すると、約40%が米軍の施設となっている。沖縄県は、米軍の基地が最も多い県である。このように、沖縄県には多くの米軍基地が存在している。

米軍基地の移転や閉鎖に関する議論が盛んに行われている。しかし、米軍基地の存在は、沖縄県民の生活に大きな影響を与えている。特に、騒音問題や騒音被害は、多くの県民にとって大きな悩みの種となっている。

190 第3編 現代の世界と日本 / 現代からの探究

▶前見返しに「日本の近代化産業遺産」「日本の世界遺産」を掲載し、また、人物の肖像写真のキャプションにはその人物の出生地を記載することで、各地域の近代化のようす、歴史的な遺産について興味・関心を高めるよう工夫しています。

2 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
近代史を学ぶ前に	(1) 私たちの時代と歴史	5～18ページ	(3)
序 編 私たちの時代と歴史	(1) 私たちの時代と歴史	19～25ページ	1
第1編 近代の日本と世界			
第1章 国際環境の変化と幕藩体制の動揺	(2) 近代の日本と世界 ア	28～37ページ	5
第2章 明治維新と近代国家の形成	(2) 近代の日本と世界 ア	38～59ページ	11
第3章 立憲政体の成立と国際的地位の向上	(2) 近代の日本と世界 ア	60～91ページ	12
もっと知りたい日本史 台風 —忘れられつつある自然被害—	(2) 近代の日本と世界 ア	75ページ	0.5
第2編 大戦期の世界と日本			
第1章 第一次世界大戦と日本	(2) 近代の日本と世界 イ	94～113ページ	9
もっと知りたい日本史 関東大震災 —犠牲者と慰霊碑—	(2) 近代の日本と世界 イ	109ページ	0.5
近代の追究① 近代日本の住環境	(2) 近代の日本と世界 ウ	114～115ページ	1
近代の追究② 大日本帝国をめぐる人口移動	(2) 近代の日本と世界 ウ	116～117ページ	1
第2章 第二次世界大戦と日本	(2) 近代の日本と世界 イ	118～143ページ	10
もっと知りたい日本史 終わらない戦争	(2) 近代の日本と世界 イ	143ページ	0.5
第3編 現代の世界と日本			
第1章 戦後政治の動向と国際社会	(3) 現代の日本と世界 ア	146～163ページ	6
もっと知りたい日本史 敗戦と文化財流出	(3) 現代の日本と世界 ア	149ページ	0.5
第2章 経済の発展と国民生活の変化	(3) 現代の日本と世界 イ	164～177ページ	6
もっと知りたい日本史 東日本大震災の 記録を後世へ伝える	(3) 現代の日本と世界 イ	175ページ	0.5
第3章 現代の日本と世界	(3) 現代の日本と世界 イ	178～187ページ	3
近代の追究③ 地域社会の変化 —市町村合併の歴史—	(2) 近代の日本と世界 ウ	188～189ページ	1
現代からの探究 沖縄の基地問題と私たちの課題	(3) 現代の日本と世界 ウ	190～193ページ	1.5
		計	70(73)